

作野幸憲でございます。私は、先ほど委員長報告にありました修正案に賛成の立場から討論いたします。

今回の修正案は、執行部提出の本予算のうち、庁舎建設事業費の庁舎予算設計費・敷地地質調査費・造成設計費及び用地取得費の減額、また高速バスストップ整備事業費すべてを減額、そして市民会館改修事業費の運営経費を除く残りすべてを減額し、総額5億7180万円を減額修正するものであります。

まず庁舎建設事業費の修正についてです。

この庁舎建設事業は、近藤市長が3年半前の市長選で掲げられた最大の公約です。昨年3月議会において、市長と当時の議長の間で、「このままでは関係者に多大な迷惑をかけることになり、安来市の将来に禍根を残す」とのことから、速やかに課題を解決し前進する意味での約束が、期限付きで交わされました。それを受け、議会は付帯意見を添えて庁舎建設予算を可決しました。その内容は昨年3月議会の委員長報告にもありますように「議会としては、安来庁舎の建て替えを現在地で承認することとし、それを受け市長としては、切川・今村地区の地区計画廃止等の課題解決に向けた合意形成を速やかに行い、そのうえで設計等の事業を実施する。」というものです。

しかし現在期限を過ぎても議会との約束は果たされていません。この期限は昨年9月末でした。市長は全員協議会で「議会との約束は守ることができなかったが、予算を執行させてほしい。地権者とは引き続き誠意をもって交渉する。」と発言しておられます。私もその言葉を信じ、今日まで動向を見させていただきました。しかし言葉とは違い、その後地権者との交渉は約5か月間も行われていません。市長が言われる誠意とは何ですか？私は自らが汗をかき、課題解決に向け合意形成をすることだと思えます。今議会で、執行部からは地区計画廃止と庁舎建設は切り離して行おうと発言されました。そんなことをすれば、ますます地権者と溝は深まり、市長もとても大事だと言っておられる切川バイパスも目途さえ立たなくなってしまう。また、現在900万円余りをかけ、業者に基本計画を作成する上での必要な資料を発注しておられる段階で、案が今後出来上がれば、しっかりと案を市民や議員に示し意見を聞くとも言っておられます。そうであるならば、基本計画も市民に示した段階での予算計上が私は妥当だと考えます。今は時期尚早です。また議会との約束の重みです。市長は議会との約束をどう考えておられますか？私は非常に重いものだと思います。今回庁舎建設事業費を

そのまま通せば、議会との約束など何の意味も持たないものとなってしまいます。よって庁舎建設事業費の一部減額修正に賛成です。

次に高速バスストップ整備事業費の修正についてです。

この事業は、昨年3月議会において「上程までに、さらに調査をし検討する必要がある」との理由により、市長自ら取り下げられたものです。1年たっても調査をされた形跡はありません。調査のしようがないともとれる発言がありましたが、本当に調査はできなかつたのでしょうか？調べる方法は、たくさんあると考えます。現在中長距離の高速バス利用者の多くは、お金はあまりないが時間には余裕のある学生さん。また定年退職迎えた方々の利用も伸びていることです。そうであれば成人式の時や市内の高校などにアンケートのお願いをしてみれば若い層からの精度の高いデータが取れますし、また会員の中に退職された方も多い東京や近畿などにある県人会などに協力をしてもらえば、年齢層の高い方のデータも集められると思います。また松江尾道線が平成26年度に開通するから今からバスストップを作っておく必要があるとも言われましたが、これもまだ開通までには時間がありますので、広島県人会の方などに協力をしてもらえば、調査は十分できると思います。

特に利用客の70%以上が利用する大阪・岡山便が停車する見込みがないことは、費用対効果ありません。またバスストップを設置する予定の場所の安全安心対策も不十分です。現在止まる可能性のある6往復12便についても半数の便が、早朝と夜遅くの利用時間となります。人気の少ない、アクセスが悪い場所を、多くの人が利用するとは、私には到底思えません。このような理由からこの事業のすべてを減額修正することに賛成です。

最後に市民会館改修事業費の修正についてです。

市長は施政方針で、「文化活動推進のため」と言っておられますが、そうであれば、耐震調査だけではなく、建物全体の強度も調査し、向こう何年間文化施設として使用するのか？また体育館、近隣市の同施設とのすみわけをどうするのか？など今後の市民会館の位置づけを明確にすべきです。また長時間使用する機会の多い市民のことを考えれば、市民の様々な意見や要望を聞く必要があると思います。今回の提案にはそれは全くありません。さらに耐震補強についても緊急性はないとの説明でした。またアスベスト撤去についても飛散防止の処理はしてあり、これも緊急性はありません。そして今安来庁舎の建て替えが計画されているとき、市民会館周辺をどうするか

も考え、このゾーン全体の配置計画も示すべきと考えます。市民の意向がなんら取り入れられていない提案は、時期尚早です。このような理由から当面の市民会館運営経費を除く減額修正に賛成です。

以上3事業の修正案は、反対のための修正案ではありません。私たち議員がこの事業が必要な事業なのか、判断する材料がほとんど示されていません。判断材料が示され、議論できる状況になり、しっかりとした説明で納得することができれば、賛成もします。しかし今の状況での予算提案は時期尚早です。

私は政治家は一言で言うと「住民のみなさんから納めていただいた税金の使い道を決める人」だと思っています。以前の議会は国から業務委託された機関委任事務について、審議権も条例制定権も予算の減額修正権も持っていませんでした。しかし2000年の地方分権改革でこの制度は全廃され、議会には自治体すべての業務に審議権、条例制定権が認められ、すべてが実質的に予算審議の対象になりました。このことによって不必要な仕事をなくすこともできるし、予算を減額修正することもできるようになりました。今回減額修正案が出たことは、議会がまとまるなら、執行機関に政策提言し、行政をリードすることもできるということです。その反面議会の責任

も大きくなり、また責任も負わなければなりません。市長も政治家
私たち議員も政治家です。両方とも税金の使い道を決める人なので
す。今回の減額修正案が安来市の将来にとって、適正な税金の使い
道であると申し上げ、賛成討論といたします。